



豆類の病害虫防除について

7月1日現在、豆類の生育は大豆・小豆で4日早く、金時・手亡で3日早くなっています。防除開始の目安となる開花始の平年値は表1のとおりですが、は種日・品種によって前後するため、ほ場をよく観察し開花始を把握しましょう。

病害虫の薬剤防除に当たっては、近接する農作物に農薬が飛散しないように風向き等に注意し、適正に散布しましょう。また、耐性菌の発生を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

表1 7月1日現在の生育遅速と平年の開花始（十勝農改本所管内）

	大豆	小豆	金時	手亡
生育遅速（日）	+4	+4	+3	+3
平年開花始（月日）	7/17	7/23	7/15	7/22

マメシンクイガやアズキノメイガ、食葉性鱗翅目幼虫の被害が多い場合は、下記の防除体系例を参考に殺虫剤を組み合わせ、適期防除に努めましょう。

表2 大豆防除体系例（菌核病・マメシンクイガ・食葉性鱗翅目幼虫）

防除開始時期		防除薬剤	倍率	系統名
1回目	開花始後10～15日	トップジンM水和剤	1,000	MBC
		プレバソンフロアブル5	4,000	ジアミド
		ゲットアウトWDG	3,000	ピレスロイド
2回目	1回目防除後10日	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000	QoI
		スミチオン乳剤	1,000	有機リン

※ 大豆のカメムシ類について

プレバソンフロアブル5はカメムシ類には効果がない。開花後（莢伸長期以降）、ほ場でカメムシ類が確認された場合は、カメムシ類に登録のある薬剤（トクチオン乳剤など）を使用し防除に努める。

表3 小豆防除体系例

(灰色かび病・菌核病・炭そ病・アズキノメイガ・食葉性鱗翅目幼虫)

防除開始時期		防除薬剤	倍率	系統名
1回目	開花始後7～10日	プライア水和剤	1,000	Nフェニルカーバメート・MBC 有機リン
		スミチオン乳剤	1,000	
2回目	1回目防除後10日	オルフィンフロアブル	2,000	SDHI ピレスロイド
		ゲットアウトWDG	3,000	
3回目	2回目防除後10日	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000	QoI 有機リン
		(スミチオン乳剤)	1,000	

※1 マキバカスミカメの防除適期は開花始の25～26日前後である(開花始から毎日の日平均気温の積算515～520℃に達する時期)。ほ場の開花始を確認し防除を行う。

※2 マメアブラムシの発生が見られたら、速やかに防除を行う。特に、生育後半は薬剤がかかりにくいいため、水量を増やすか、浸透移行性のある薬剤を選択し、効果的な防除を行う。

表4 金時・手亡防除体系例(灰色かび病・菌核病(金時類))

防除開始時期		防除薬剤	倍率	系統名
1回目	開花始後5～7日	プライア水和剤	1,000	Nフェニルカーバメート・MBC
2回目	1回目防除後10日	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000	QoI
3回目	2回目防除後10日	(プライア水和剤)	1,000	Nフェニルカーバメート・MBC

表5 菜豆類のインゲンマメゾウムシ

防除開始時期	防除薬剤	倍率	使用時期	系統名
収穫日に近い時期 (莢の緑色が完全に抜けてきた頃)	ダントツ水溶剤	2,000	収穫前日	ネニコチノイド

“安全確認” 「みんなの願い農作業事故ゼロ」

農作業中の水分補給等を行い、体調管理を心掛けましょう。